

都道府県名	石川県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	石川県野々市町立富陽小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	28
児童数	95	89	90	90	83	91	1	538	

・研究の概要

1. 研究主題

「自ら学ぶ 意欲的な子」 ～基礎・基本の確実な定着とともに～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年全教科（全教職員が取り組めるように 成果も課題も全員が共有できるように）
 ただし、システムとして
 1年国語科少人数指導（言語能力は全ての教科におけるベースとなる力であるので、なるべく早い時期から）
 5・6年算数科TT（理解度に差が出やすい教科、学年であるため）

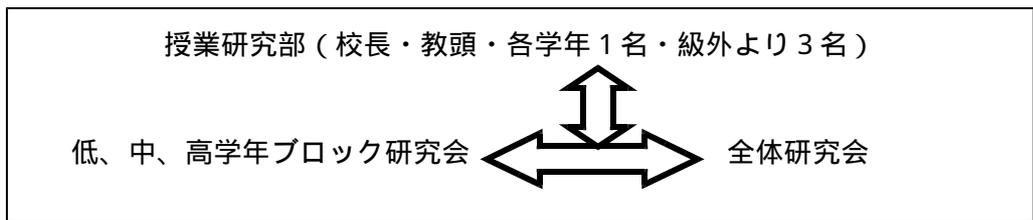
(2) 年次計画

平成14年度	<p>テーマ 「自ら学ぶ 意欲的な子」 ～基礎・基本の確実な定着とともに～</p> <p>仮説 「聞く」力を高めていくことで、主題に迫り、さらには学力を向上させることができる</p> <p>研究内容・方法 本校の児童の実態を踏まえ、つけたい力（向上させたい学力）の絞り込み...「聞く」力の向上 マナーとしての聞くしつけの徹底 「聞き合う」を重視した授業づくり ・聞き合う姿の定義（比べて聞く、思考する、発信する） ・課題に対して、しっかり思いや考えを持たせるための教師の関わりを探る 「聞き合う」授業のために、TTや少人数指導のあり方を考え 試行する 評価規準の作成、それを生かした指導の実践</p>
--------	---

平成 15 年 度	<p>テーマ 「自ら学ぶ 意欲的な子」 ～基礎・基本の確実な定着とともに～</p> <p>仮説 「聞く」力を高めていくことで、主題に迫り、さらには学力を向上させることができる</p> <p>研究内容・方法 「聞く」力を構成するもの、それに付随するものを明らかにする 「聞き合う」を重視した授業づくり ・できるだけ具体的な場面での目指す姿を出し合い、共有化 ・目指す姿に近づいているかどうかを見とるための基準の作成 ・課題に対して、しっかり思いや考えを持たせ、比べて聞けるための教師の関わりを探る 行事等全ての教育活動で、「聞く」力を高めるための取り組みを探る 「聞き合う」授業のために、TTや少人数指導の効果的なあり方を考えていく 評価規準をさらに具体化した尺度（物差し）の作成 規準だけでは抽象的すぎ、なかなか評価しにくい、という反省を受けて、A基準よりも先に、尺度を明確にしていくことにした</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 「自ら学ぶ 意欲的な子」 ～基礎・基本の確実な定着とともに～</p> <p>仮説 「聞く」力を高めていくことで、主題に迫り、さらには学力を向上させることができる</p> <p>研究内容・方法 「聞き合う」を重視した授業における、教師の関わり（手だて）を整理し、さらに「聞き合う」姿を求めていく 行事等での「聞く」力を高める取り組みを整理する 「聞き合う」ための、TTや少人数グループでの効果的な指導をまとめ、さらに実践を積む 評価を生かした指導例を蓄積する 「聞く」力の向上と、学力の関係について検証する</p>
--------------------	---

(3) 研究体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度も学力を構成する様々な要素のうち、「聞く」力の向上に絞ったことで、全職員が基本的な考え方を合わせ、一致した取り組みをすることができた。具体的には、「聞く」力のペースとなる、マナーとしての聞く態度は昨年度よりさらに向上している。

(職員の振り返り、保護者へのアンケート、中間発表会での参観者の声より)

また、より積極的な聞き方ができるようになるために、昨年度より授業の中で「聞き合う」姿を求めてきた。その第1段階として課題に対して自分の思い・考えを持たせるための様々な手だてをまとめることができた。さらに今年度は、授業の中で目指す具体的な姿を設定し、段階を追って「聞き合う」に向けて取り組みを続けた。求める姿が明確になることで、授業改善の視点が浮き彫りにされた。

少人数グループや IT の良さを活かして、昨年度の課題であった「考えがしっかり持てない」「自信がない」などに、細かく対応してきた。少しずつではあるが、考えをもって、発表できる子供が増えている。

(職員の振り返り、保護者へのアンケート、子どもの自己評価より)

評価については、昨年度、全教科・全単元、1時限ごとに1つずつの評価規準を作成した。これにより、ねらいを明確にして、授業に臨めるようになってきている。今年度はさらに、具体的な尺度(物差し)を作成してきた。昨年度よりも効率的・客観的な評価ができるようになってきている。これをもとに的確に子どもを見とり、指導・支援に活かしていくという実践を蓄積している。

2. 今後の課題

「聞き合う」に関していえば、態度面・意欲面は確実に育ってきているが、子ども同士の関わりが十分でなく、「聞き合う」姿にはまだ至っていない。子ども同士が聞き合い、高まり合っていくためには、どんな教師の手だてが必要なのかを探っていきたい。

評価に関しては、尺度をさらに継続して作成しながら、評価を活かした指導をさらに進めていく必要がある。

また、自分たちが重点的に取り組んでいる「聞く」力の向上が、確かな学力の3要素である「学んだ力」にどうつながっていくかを検討していかなければならない。

・学力把握のための学校の取組

- ・ 教師による子どもの姿の見とりと、子どもの自己評価
- ・ 学校公開、授業参観などの場を利用した、保護者へのアンケート
6月と10月 学校公開日に合わせて実施
アンケート形式で(選択式、自由記述)
子どもの態度、「聞く」技能の育ちについて
- ・ 学期ごとの教師の自己評価
- ・ 県の基礎学力調査の結果の詳細な分析
平成14年度と15年度の比較
特に、「聞く」力に関係する項目を洗い出し、分析する

・ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成15年2月19日、きめ細かな指導推進協議会および学力向上推進協議会の場で算数科T.Tの授業公開。さらに、昨年度の取組について10分程度で報告。対象は、金沢教育事務所管内、フロンティアスクールの教員代表、保護者代表、および、T.Tや少人数加配配置校代表者、約80名。
- ・平成15年11月12日、各学年1クラスの授業公開及び低中高別分科会という形の中間発表会を開催。金沢教育事務所管内並びに金沢市の全学校に案内送付。その段階の子どもたちの姿をそれまでの研究成果としてみてもらう。併せて、1年半の取組みを報告（研究概要報告、実践事例報告、討議）。参加者約200名。
- ・来年度は、町の公開発表に合わせ、全クラスでの授業公開並びに3年間の取組みを実践発表する予定（10月1日に確定）。その際に、これまでの取組みをまとめた実践事例を発表会要項の別冊として配布する予定。県内全ての学校に案内を送付していきたい。
- ・本校のホームページに、学校研究の項目がある。そこにこれまでの取組みが載せられている。

（HPアドレス <http://education.town.nonoichi.ishikawa.jp/fuyousho>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無